

# 地球温暖化の最新科学と、 これまでの国際交渉

2014年7月2日

地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)

国際交渉担当 土田道代

# COP19までと、今後の交渉



議定書  
(先進国の  
次期約束)

AWGKP

ADP

二〇二〇年以降の枠組み合意

条約  
(長期的  
協力行動)

AWGLCA

バリ  
行動  
計画

コペンハーゲン合意・留意

ダーバン

フルシャワ

リマ

ADP : ダーバン・プラットフォーム特別作業部会

# COP16以降の流れ

- 2010年COP16:「**2°C目標**」に合意
  - 工業化前に比べて、地球の平均気温の上昇を2°C未満に抑えるという目標
- 2011年COP17でADP設置(行動強化のためのダーバン・プラットフォームに関する特別作業部会)
- 2012年5月からADP交渉開始
- 2013年**COP19での重要決定**
  - 事前協議型国別目標案(INDCs)の「提出時期」と「情報」
- 2014年3月コンタクト・グループ設置
- 2014年6月(今回の会合)
  - 自由協議型からコンタクト・グループでの交渉を開始
    - 交渉をより公式度の高いものへ、合意要素案作りへ

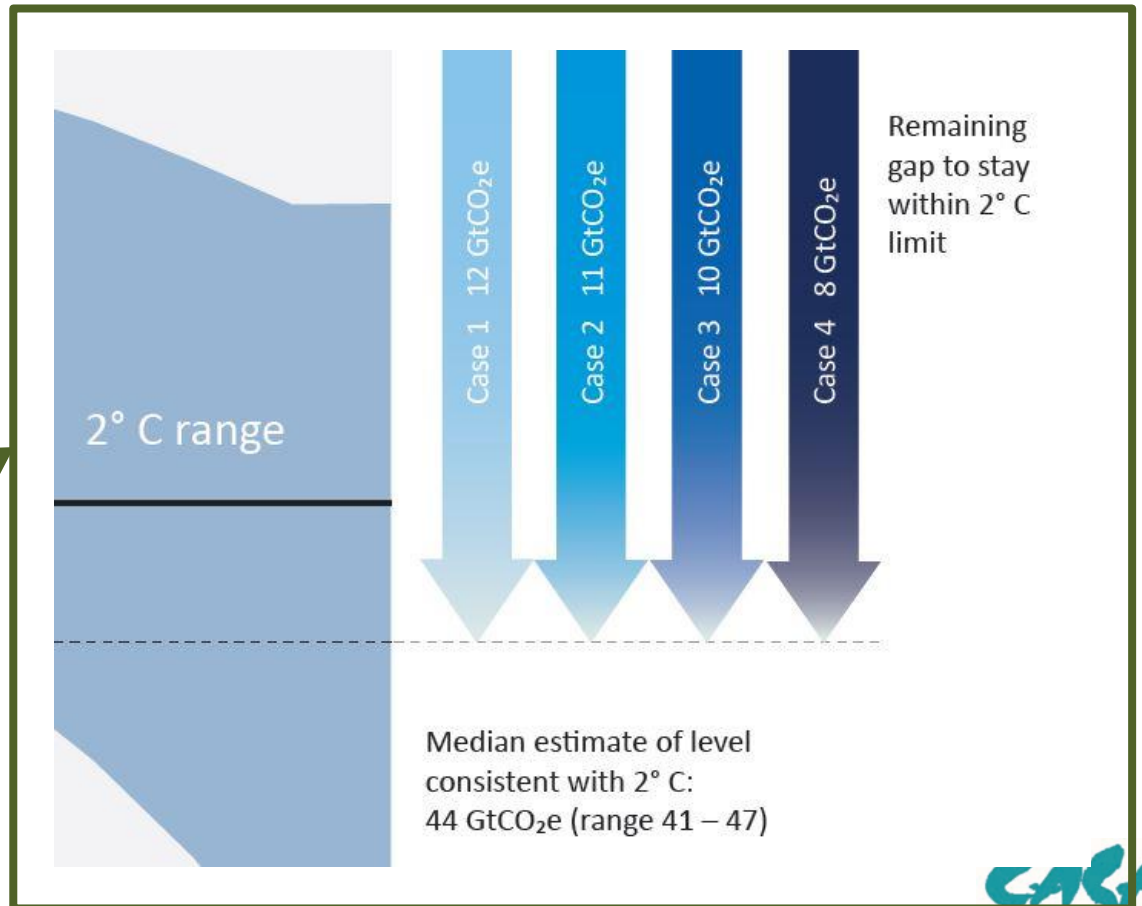
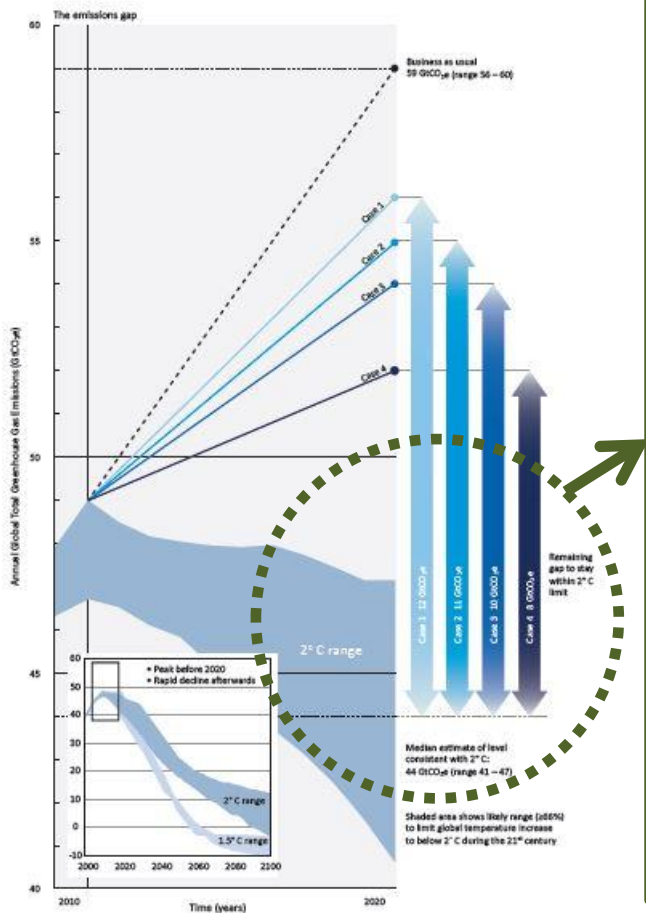
# ADP交渉と2°C目標

- ADPの2つの交渉テーマ(ワークストリーム)
  - WS1: **すべての締約国が参加**する、2020年から開始するとされる**新しい法的枠組み**に関する議論
    - 2015年までに合意することをめざす
  - WS2: 2020年までの**温室効果ガス排出削減レベルの引き上げ**に関する議論
- **長期目標「2°C」を達成するため、実効性を確保し、排出削減量ギャップを解消する**
- IPCCが提供する気候変動に関する**最新の科学的知見**を交渉プロセスに**インプット**する

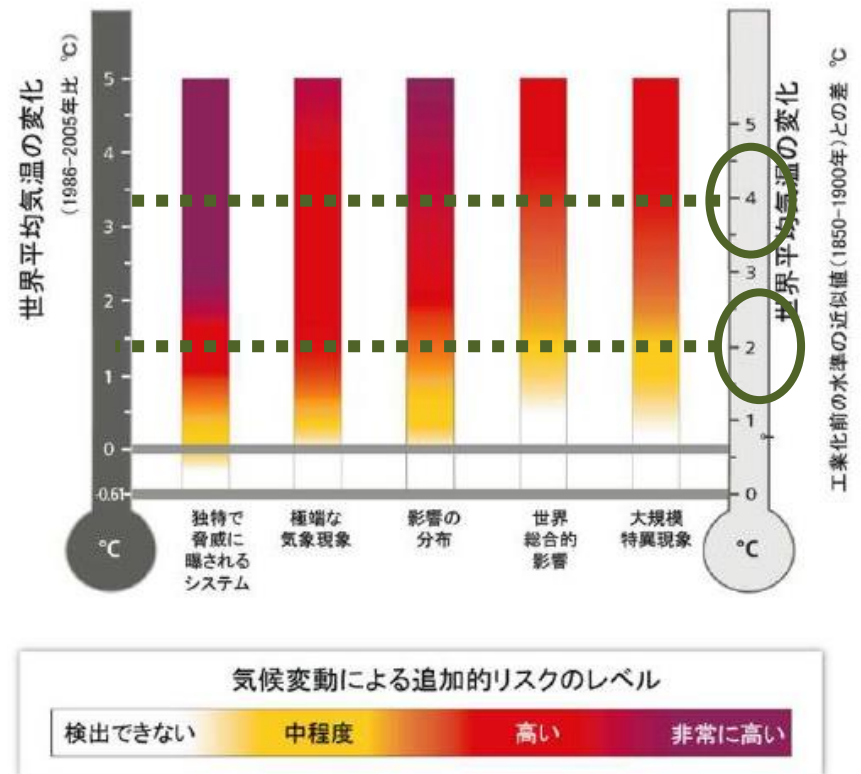
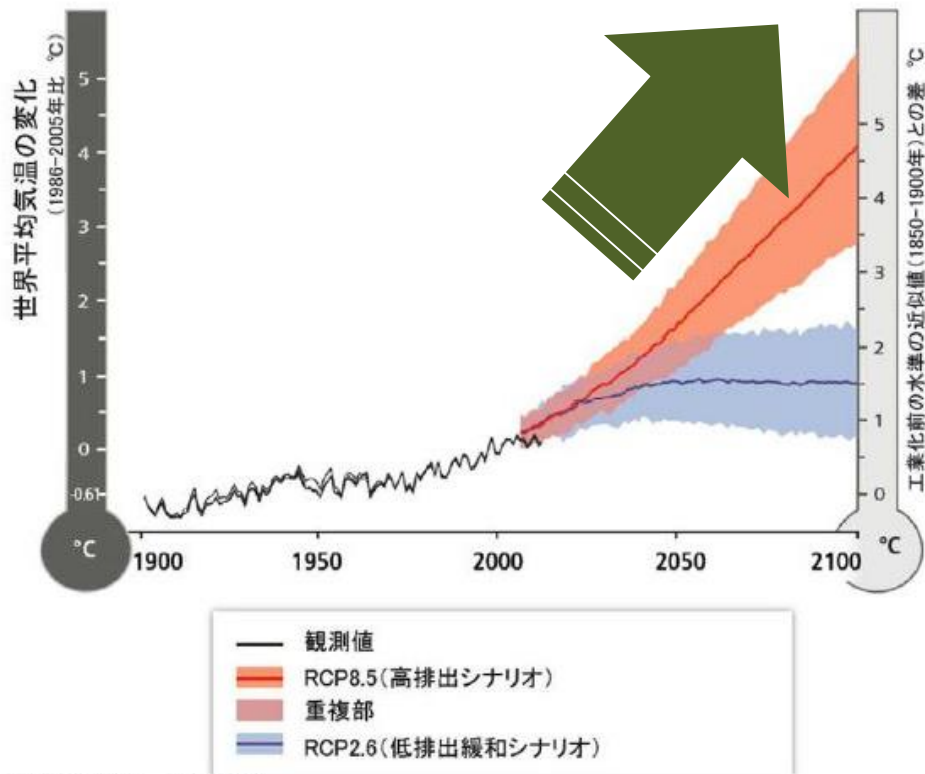
# ギャップへの重大な懸念

## 80億トン～120億トン(CO<sub>2</sub>換算)

### 排出削減量が**足りない!**



# IPCC AR5からの警告 4°C上昇へ？



評価に関するBox SPM.1図 1.

出典：環境省HP, IPCC第5次評価報告書第2作業部会報告書  
政策決定者向け要約 環境省速報誌(2014年5月23日版)より

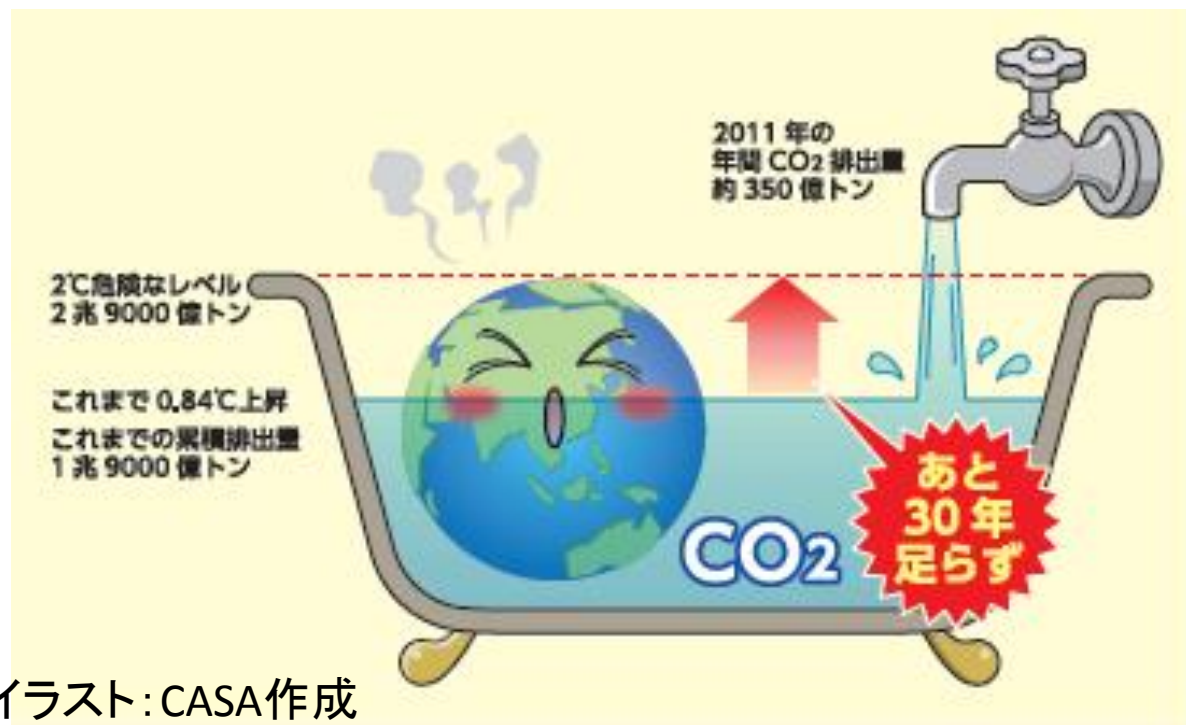
# 「2°C未満に抑制」+「適応策」 4°C上昇の場合と比較

アジア				
主要なリスク	適応の課題と展望	気候的動因	時間軸	リスク及び適応の可能性
<p>アジアにおけるインフラや居住に対し広範な被害をもたらす河川・沿岸・都市洪水の増加(確信度が中程度) [24.4]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造的及び非構造的対策、効果的な土地利用計画、選択的移住を通じた曝露の軽減</li> <li>・ライフラインインフラとサービス(例:水、エネルギー、廃棄物管理、食料、バイオマス、モビリティ、地域の生態系、通信)における脆弱性の低減</li> <li>・モニタリング及び早期警戒システムの構築:曝露された地域を特定し、脆弱な地域や世帯を支援し、生計を多様化させる対策</li> <li>・経済の多様化</li> </ul>		<p>現在</p> <p>近い将来 (2030-2040)</p> <p>長期的将来 (2080-2100)</p> <p>2°C</p> <p>4°C</p>	<p>非常に低い</p> <p>中程度</p> <p>非常に高い</p>
<p>暑熱に関連する死亡リスクの増大(確信度が高い) [24.4]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暑熱に関する健康警報システム</li> <li>・ヒートアイランド現象を軽減するための都市計画立案:建築環境の改善:持続可能な都市の開発</li> <li>・屋外作業員の熱ストレスを回避する新たな働き方の実践</li> </ul>		<p>現在</p> <p>近い将来 (2030-2040)</p> <p>長期的将来 (2080-2100)</p> <p>2°C</p> <p>4°C</p>	<p>非常に低い</p> <p>中程度</p> <p>非常に高い</p>
<p>栄養失調の原因となる干ばつによる水・食料不足の増大(確信度が高い) [24.4]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期警戒システム及び地域対応戦略など災害へ備え</li> <li>・適応的/統合的水資源管理</li> <li>・水インフラや調整池の開発</li> <li>・水の再利用を含む水源の多様化</li> <li>・より効率的な水利用使用(例:改良された農業慣行、灌漑管理、及びレジリエントな農業)</li> </ul>		<p>現在</p> <p>近い将来 (2030-2040)</p> <p>長期的将来 (2080-2100)</p> <p>2°C</p> <p>4°C</p>	<p>非常に低い</p> <p>中程度</p> <p>非常に高い</p>

出典:環境省HP, IPCC第5次評価報告書第2作業部会報告書  
政策決定者向け要約 環境省速報記(2014年5月23日版)より

# 2°Cを超えるまで30年足らず

- CO<sub>2</sub>の累積排出量と平均気温の上昇は比例関係。
- 2°C未満に抑えるための、累積排出量は約2兆9000億トン。すでに約1兆9000億トンを排出し、残された量は約1兆トン。現在の排出量は年350億トン。



29年で1兆トン。

出典：気象庁HP, IPCC第5次評価報告書 第1作業部会報告書 政策決定者向け要約 気象庁訳(2014年3月6日版)より

※報告書ではギガトン(1Gt = 10億トン)の単位で書かれています。



# 低炭素化社会を目指して

- G7／G8、G20、MEF(エネルギーと気候に関する主要経済国フォーラム)等の場においても

## G7 ブリュッセル・サミット 首脳宣言(2014.06.06.)

- 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第5次評価報告書において示されたように、気候変動に対処するために、緊急かつ具体的な行動が必要である。したがって、我々は、産業化以前の水準と比べて世界全体の気温の上昇を摂氏2度より下に効果的にとどめるために自らの役割を果たすとの観点から、低炭素経済に引き続き深く関与する。我々は、野心的で包摂的、かつ、変化する世界の状況を反映した、全ての締約国に適用される新たな議定書、他の法的文書又は憲章の下で法的効力を有する合意成果といった世界的な合意を2015年に採択するという、我々の強い決意を確認する。(パラ10)

ご静聴ありがとうございました

お問合せ・ご連絡先

地球環境と大気汚染を考える全国市民会議

CASA

TEL:06-6910-6301 FAX:06-6910-6302

E-mail: [office@casa.bnet.jp](mailto:office@casa.bnet.jp)

URL: <http://www.bnet.jp/casa/>